

ダージリンやアッサムなどで茶摘みが停止

インド紅茶の茶摘みは、ほぼ1年中摘まれている南インドを除くと、冬には行なわれない。とはいえ、インド北部や東部などでは、通常は1月中旬頃まで行なわれている。しかし、今年は事情が違ふ。

11月16日(木)、Tea Association of India (以下、TAI: Indian Tea Association とは別団体) は、12月12日から1ヵ月間、アッサム州、西ベンガル州、およびトリプラ州での紅茶生産を休止するように茶園オーナーに要請することを決定した。

11月17日(金)、TAIなどの5つのメンバーからなる Consultative Committee of Plantation Associations (農園協会諮問委員会?) (以下、CCPA) が、インド北部と東部での紅茶の生産を中止するよう、業界に勧告した。なかでも、品質的に劣る、エンドシーズン・ティーに関しては、強い要請がなされている。

さらに同日、TAI とインド北部、東部に関係する紅茶会社が、エンドシーズンの紅茶の出荷を制限することで合意した。

18日(土)には、国内の有力な貿易業者の団体が、12月からの紅茶生産を中止するように、インドの主要茶園オーナーに要請した。

元来、12月以降の冬季は、インド北部や東部では気温が低いなど、気候的に良質な紅茶を生産することが困難であった。しかし、期間を請して安定した収入を得るためもあり、近年、冬場の生産が増える傾向にある。

このような状況の中で、前記の発表が行なわれたが、実際に紅茶の生産が停止されても、業界のコメントでは、定期労働者には給料を支払い続けるため、労働者に悪い影響はないとしている。

「市場は、粗悪な紅茶であふれかえり、それが業界のイメージを損なっている。」と、TAIの秘書官が語っているとおりに、11月中旬現在、市場には粗悪な品質の紅茶があふれていた。

しかしながら、一連の発表のあと、売れ残っていた紅茶が、オークションや国内市場で流通し始めている。TAIの秘書官は、続けて「生産を止めるという決定は市場の購買意欲を押し上げることができる」とも語っていた。また、CCPAは、「紅茶の生産中止は国内消費とは別で、輸出にも悪影響を及ぼす」とも述べてお



大量に在庫化する紅茶